

わたしの ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第41号 2023 / 7

特集 みんなの推し虫



特集

昆虫館スタ

「推し」「推し活」といった言葉を最近よく耳にしませんか。人物、キャラクター、音楽、活動を推し活と呼びます。そんな推しの対象が虫になったものを推し虫と呼ぶことに

昆虫館で推し虫の展示

自分の好きな対象を推しと称し、その推しを応援する活動を推し活と呼びます。推しに逢う・推しに触れる・推しに染まる・推しを集める・推しを広めるなど推しの対象に合わせて推し活も多様です。推し活を英訳すると supporting my fave なんだとか。

当館で推し虫の展示を始めたのは2018年。当時の奥山館長(現市立伊丹ミュージアム館長)の発案によるプチ展示「昆虫館スタッフ's 推し虫」がきっかけでした。いたこんの学芸スタッフが今いちばんオススメしたい昆虫をマニアックに紹介!という内容です。通常は複数の標本を詰めて展示している標本箱(ドイツ箱)ですが、推し虫の展示では、推し虫のためだけに贅沢に使っています。推しの標本を入れるだけでなく、写真やコメントなども混ぜて、たくさんの人に推しを紹介するための工夫を凝らしました。この推し虫標本箱は、今ではおよそ20箱に。この夏は更に箱を増やして特別展「みんなの推し虫」で紹介することになりました。

今回の特集では当館スタッフそれぞれのイチオシ昆虫を紹介し「推しを広める」推し活をさせていただいております。



坂本館長の推し虫 クサヒバリ



クサヒバリのオス

当館に採用されて最初に担当した展示は、毎年秋の定番となっていた企画展「秋の鳴く虫」でした。展示のために野山をめぐっているんな鳴く虫を探し捕まえていると、どの虫も好きになってしまうのですが、なかでもお気に入りにはクサヒバリです。

茂みや笹やぶの中から聞こえる「フィリリリ・・・」という高く透き通った声は、涼しく爽やかな感じがして、とても気持ちよく感じます。見た目も魅力的です。僕はクサヒバリを見ると、なぜか玄米を連想します。大きさは米粒ほどに小さく、色も玄米のような薄茶色ですが、ハネや体にある濃淡の模様が力強く、なんともかっこよいのです。飼育すると昼間からよく鳴いてくれることや、

飼いやすく秋の終わり頃まで鳴いてくれるところも魅力です。

クサヒバリはかつてスズムシやキリギリスなどとともに販売されていました。日本以外では、中国にも鳴く虫の声を楽しむ文化があります。企画展を担当していた頃、中国の花鳥市場を訪れました。そこには多種多様な鳴く虫がいましたが、クサヒバリなどの小さな鳴く虫もいて、お店の人によるとスズムシなどより人気とのことでした。中国ではクサヒバリは虫のサイズに合わせた小箱などに入れて持ち歩き、声を楽しみます。僕も市場で精巧につくられた木製の小箱を買いました。もったいなくてまだ入れたことはないのですが、こんど捕まえたら入れて飼育したいと思います。

(坂本 昇)



クサヒバリなど小型の鳴く虫用の小箱。2匹入るようになっています

おむし ツプの押し虫

建物や風景、食べ物など自分の好きなものを押しと称し、その押しにまつわる様々なして、今特集では昆虫館スタッフが思い入れのある押し虫を皆さんに紹介します。

野本副館長の押し虫 オオキンカメムシ

私の押し虫はオオキンカメムシ。カメムシの仲間の昆虫です。オレンジ色に黒い斑点、ひっくり返すとお腹側は蛍光ピンク、このド派手な見た目はインパクトがあり過ぎます。当館にも「この虫何？初めて見た、とってもキレイ!、新種?」といった問い合わせが入ります。本種は夏の間、アブラギリ(トウダイグサ科)の樹上で繁殖し、幼虫はこの木の実を吸汁して育ちます。秋になると繁殖地から姿を消し、冬場は暖かい海岸沿いの常緑樹林内で集団



アブラギリの花 (5月)



アブラギリの実を吸汁する成虫 (9月)

越冬します。越冬場所の調査では常緑樹の葉裏を丹念に探していきます。越冬個体を見つけた瞬間はもうテンション max。こんなに目立つ虫ですが繁殖地と越冬地の間の移動経路や移動距離についてまだ詳しくわかっていないようです。ちなみにカメムシなので刺激すると結構ニオイます。

(野本康太)



集団越冬中の成虫 (1月)

田中学芸員の押し虫 オオヤマトンボ

オオヤマトンボは黒地のボディに黄色のスジ模様が入る大型のトンボで、一見オニヤンマに見間違えられるかもしれませんが。しかし、胸部にはオニヤンマにはない金属光沢があり、頭部には横向けの白い模様が2本、まるで笑っている口のように見えます。この美しく、また親しみが湧いてしまう姿のトンボは、日本では北海道から南西諸島まで広く分布していて、平地でも見られます。



オオヤマトンボ

2023年6月に出版された、今森光彦さん著、伊丹市昆虫館監修の「日本の昆虫(出版社:アリス館)」の表紙には、なんとこのオオヤマトンボがメインにレイアウトされています。今森光彦さんは、琵琶湖のほとりでこのオオヤマトンボを見て育ったそうで、上記の本の制作会議の際には筆者もオオヤマトンボのファンということで、大いに盛り上がりました。

(田中良尚)



オオヤマトンボ正面



日本の昆虫(出版社:アリス館)

角正学芸員の推し虫 てんとうむし

2013年に企画展「てんとうむし」を担当したことがきっかけで、なんとなく推しを開始。はじめは展示用の生態写真をとるため、当館周辺や市内調査で、ナミテントウやナナホシテントウを採集しました。そのうち北摂のハイキングでカメノコテントウを採集し持ち帰ったら、産卵したのでそのまま飼育に挑戦です。クルマシやヤナギハムシの幼虫が身近にいないので、捕食性テントウムシの代用食として使われる、雄蜂児粉末（ミツバチのオス幼虫を粉末にしたもの）を試してみました。しかし、うまくいかなかったのです。当館のミツバチのお世話の際にすこし幼虫をもらい、試しに与えてみたところ、ガブッと食いついたではありませんか！その後は処分する巣板からミツバチの幼虫をピンセットでつまみだし、大量に冷凍保存しました。成虫は丸くて、かわいく見えるのに、幼虫はけっこう怖い風貌です。でも、せっせと保存したハチの幼虫をもりもりと食べてくれるテントウムシの食欲旺盛さがたまりません。



カメノコテントウ幼虫

そこから日本最大級のハラグロオオテント



交尾中のカメノコテントウ



クワにとまるハラグロオオテントウ(後ろ姿)

ウを採集し、クワキジラミをエサに飼育した時のおもしろさ。小雨のなか見つけた沖縄地方のハイロテントウに大感激。冬越し中のテントウムシ観察も楽しくて、リーフシェルター(葉っぱの隠れ家)にキイロテントウが数匹が隠れているのを見つけると、おお〜！！とうれしくなります。幼虫のあふれる食欲と、成虫の色彩豊かで丸いフォルムのテントウムシが私の推し虫です。ちなみに、てんとうむしグッズも収集しています！

(角正美雪)



ハイロテントウ(外来種です)



リーフシェルターで冬越し中のキイロテントウ



てんとうむしグッズを個人的にコレクションしています

長島学芸員の推し虫 ヒメタイコウチ

ヒメタイコウチは本州の東海地方～関西地方および四国で局所的に分布する少し珍しい水生カメムシです。体長は18～22mmほどで、呼吸管は短いことが特徴です。林縁部の、ほんの少し水面があるようなごく浅い湿地に暮らしています。

泥と落ち葉にまぎれて動かないので、探すのは簡単ではありません

せん。林縁の水たまりで、水面付近の落ち葉や枝を一枚ずつめくり、その度に動きだす生きものがないかよく観察すると、見つかることあります。観察時期は、越冬明けの成虫が産卵する5～6月頃と、新成虫が活動する9～10月頃がおすすです。

(長島聖大)



ヒメタイコウチの成虫(上メス、下オス)



ヒメタイコウチの生息環境(写真中央やや下に成虫)

前畑学芸スタッフの推し虫 スギドクガ

私の推し虫はチョウ目ドクガ科の仲間です。ドクガ科の幼虫はいわゆる“ケムシ”です。「毒蛾」といってもすべてに毒があるわけではなく、実は無毒の種の方が多いのです。毒を持つ種では、毒針毛と呼ばれる毛束をもち、その鋭い槍のような毛が皮膚に刺さると、かゆみや皮膚炎を起こします。チャドクガやドクガなどの毒を持つ種がいることはケムシが嫌われる原因の一つと言えるでしょう。そんな筆者もチャドクガの洗礼を受け大変な目にあったことがあります。



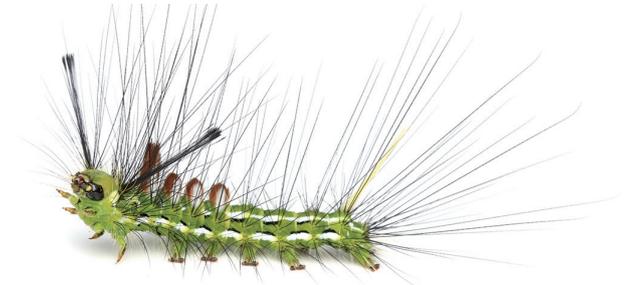
チャドクガ(ヤブで集団発生)

しかし、今回紹介するのは毒を持たないドクガの「スギドクガ」です。その名の通り、スギやヒノキなどの針葉樹を食べます。私はスギドクガの幼虫を探してもなかなか見つけられず、ずっとあこがれ続けていましたが、やっと昨年の秋に出会うことができました。出会えた

瞬間、嬉しさのあまり「わああ～～～」と叫んでしまいました。(前畑真実)



羽化したばかりの成虫(オス)：2022年12月21日撮影



終齢幼虫：2022年11月20日撮影



ヒノキの葉上で発見したスギドクガの幼虫(脱皮直後)：2022年11月6日撮影

夏の特別展はみんなの推し虫

特別展「みんなの推し虫」では伊丹市昆虫館スタッフだけでなく、昆虫館友の会、全国の昆虫館や博物館の方々にもご協力いただきマニアックでバラエティに富んだ推し虫たちを紹介します。夏の昆虫たちの生態展示や虫とのふれあい(期間限定)、イモムシベンチで記念写真なども楽しみながら、是非みなさんの推し虫を見つけてください。展示室内の推し虫♡沼トークコーナーでは自分の推し虫・推しポイントなどを書きこみ掲示板に貼って推しを広める推し活もしていただけます。

「#みんなの推し虫」でつぶやこう!

展示期間中は当館公式 Twitter でもみんなの推し虫をつぶやいていく予定です。「#みんなの推し虫」でつぶやいて、みなさんの推し虫を Twitter で発信してみましょう。自分の推しを広めつつ、いろいろな人の推し虫も楽しめるかも!

伊丹市昆虫館 特別展 「みんなの推し虫」

2023年7月15日(水)～10月23日(月)
会場：2階第2展示室

みなさんのご来館をお待ちしております!

2023年 伊丹市昆虫館★特別展

みんなの推し虫

SUPPORTING MY FAVE INSECT

伊丹市昆虫館 2023年7月15日(土)～10月23日(月)

休館日：火曜日 開館時間：9:30～16:30 (入館料1,000円)

会場：2階第2展示室 観覧料：無料 (ただし入館料)

【公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団・伊丹市】 〒664-0015 兵庫県伊丹市船場南3-1 船場南公園内 TEL:072-785-3582 https://www.itakon.com

【さいきんの

ひらかたパークの「めっちゃ! 昆虫展」



ギタイクイズにちょうせん!

大阪府枚方市にある遊園地「ひらかたパーク」で大規模な昆虫展が開催されました。その名も「めっちゃ! 昆虫展」です。期間は2023年3月18日(土)から6月25日(日)で、関西の4大昆虫博物館(!?)である、大阪市立自然史博物館、大阪府営箕面公園昆虫館、橿原市昆虫館、伊丹市昆虫館の4つの博物館が展示づくりに参加しました。

広い展示会場には色とりどりの標本、名だたる昆虫写真家の方々の映像や写真、巨大な昆虫模型、国蝶オオムラサキの生体展示などなど、ボリュームたっぷりの展示となりました。

伊丹市昆虫館チームは奥山前館長と共に、2章「昆虫の生きる世界」、3章「昆虫ってすごい!」、5章「昆虫とわたしたち」と、9章「虫を捕ろう!」の一部を担当しました。これだけ大規模な昆虫展に関わるのは初めてでしたが、近隣の博物館のみなさんとワイワイ言いながらの展示づくりは楽しく、各館の得意分野を生かした展示になったと思います。

ひらかたパークでの終了後、内容を少し変えて、滋賀県守山市にある佐川美術館で9月18日まで開催中です。よければお越しください。

(坂本 昇)



カイコとオオムラサキのイモムシベンチも登場(写真はカイコ)

久しぶりの飼育展示 オキナワオオミズスマシ

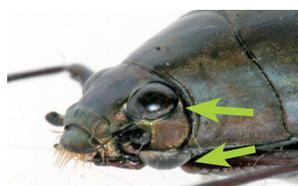
この春、生態展示室に久しぶりにオキナワオオミズスマシがやってきました。体長およそ1.5~2.0cm。日本最大級のこのミズスマシは、当館の実施している南西諸島調査の際に沖縄島北部の渓流にて採集してきたものです。本種は水面に浮かび、くるくと泳



展示水槽を泳ぐオキナワオオミズスマシ

ぎまわりながら、上部より落ちて流れてくる小さな虫などを食べてくらし。獲物を捕まえる長い前脚、高速で回転し素早い遊泳を助けるオールのような後脚、背面と腹面に分割されて水上と水中どちらも見ることでできる4つ(に見える)の複眼が特徴です。毎朝ナナフシやバッタ、ショウジョウバエなどの小さな餌をパラパラと水面に落とすとあっという間に食べ尽くしバラバラになったエサの破片が水底に沈んでいきます。水中に沈めた植物の葉や落ち葉などに産卵が見られ、幼虫のフ化も確認できました。久しぶりの繁殖に挑戦しています。

(野本康太)

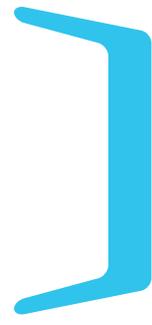


上下に分割された複眼(標本)



前脚をひろげたポーズ(標本)

飼育室から



がんばれ、ベダリアテントウ

チョウ温室に植栽しているモクセンナ(マメ科)は、昨年からイセリアカイガラムシによる大被害をうけています。オーストラリア原産のイセリアカイガラムシは、幼虫が葉の汁を吸い、成虫は枝や幹にびっしりと



花はチョウの蜜源でもあるモクセンナ(マメ科)

群生する害虫です。幼虫と成虫の大群は植物体を枯らす勢いです。葉の吸汁の被害とともにカイガラムシの排泄物(甘露)による、葉に黒カビがはえる「すす病」がまん延していました。人の手による駆除では追いつかず、モクセンナは害虫だらけ、カビだらけになってしまいました。そんな状況だとモクセンナに産卵し、葉を食べ成長するキタキチョウもやはり絶不調。質の悪いエサでは育ちません。4～5月に越冬明けの成虫を野外から入れても、チョウ



左:イセリアカイガラムシがまん延した枝 右上:イセリアカイガラムシの成虫と幼虫 右下:イセリアカイガラムシの成虫、波打ったような白い口物質で覆われています

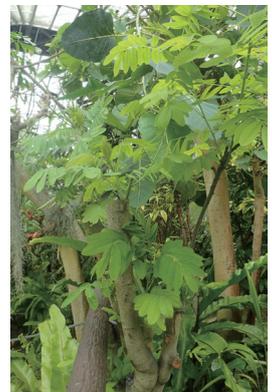


上:ベダリアテントウのさなぎ 下:成虫



ウ温室内では産卵はおろか、飼育もできず数匹程度しか飛ばせませんでした。5月中旬、もうあきらめました。植物担当学芸員に樹高3mのモクセンナを1mぐらいの高さでばっさり剪定してもらったのです。あわせて離れたところのモクセンナにも害虫が広がっていたので、野外のカンキツ類についていたベダリアテントウの蛹を採集し、成虫にしてからチョウ温室に放ちました。その数、10匹以上です。ベダリアテントウもオーストラリア原産でイセリアカイガラムシの天敵です。日本には駆除のため1911年にオーストラリアから導入されました。今では両種とも本州から南西諸島まで分布しています。

生きているチョウを飛ばしているため、農薬は使えません。ときどきテントウムシ類を放って、天敵を用いた生物的防除を行います。6月下旬、モクセンナの害虫はすっかりベダリアテントウに抑え込まれ、きれいな新芽がひろがってきました。世代を交代しながら、もうしばらくチョウ温室の害虫を食べてください。ベダリアテントウ様、よろしくお祈りします。(角正美雪)



きれいにのびてきたモクセンナ

ナミゲンゴロウの展示はじめました

当館では絶滅危惧種フチトリゲンゴロウの生体を周年展示していますが、ナミゲンゴロウは繁殖が途絶え、しばらく展示していませんでした。というのも、ナミゲンゴロウは近畿地方では野外で激減してしまっており、補充したくてもできない状況でした。

2023年1月より、ナミゲンゴロウは種の保存法による、特定第二種国内希少野生動物種に指定されました。これは、絶滅への一途を辿る本種を保全するため、個体の商取引を規制するものです。これに関連し、環境省と全国昆虫施設連絡協議会(全国の昆虫施設間の連携等に関する組織)と連携し、ナミゲンゴロウの特定第二種指定を啓発することになりました。

このため、ゲンゴロウ類など水生昆虫の飼育技術力の高いアクアマリンいなわしろカワセミ水族館より、2ペアを譲渡していただ

きました。当館に到着した翌日にはすでに産卵をはじめ、次世代も育っています。当館の生態展示コーナーでは、フチトリゲンゴロウと並んでナミゲンゴロウも展示しています。両種とも大きさがほぼ同じで、腹面が黒いか黄色いか、が見分けのポイントとなります。そのほか、微妙に違う点もありますので、ぜひ探してみてください。(田中良尚)



展示水槽の中のナミゲンゴロウ 腹面 左:ナミゲンゴロウ 右:フチトリゲンゴロウ

体験型展示が復活しました！

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の5類感染症への移行後も、当館では感染症対策を実施しながら開館しております。感染対策のため、長らく体験型展示をお休みしておりましたが、2階学習室では、ぬり絵やおりがみコーナー、昆虫スタンプコーナーを復活させました。そして、夏の特別展「みんなの推し虫」の開催と同時に、お面コーナーや昆虫のふれあい体験なども復活します。長い間お待たせいたしました。体験型展示をどうぞお楽しみください。体験される場合は密にならないようご注意ください。（前畑真実）



オオゴキブリのふれあい体験

昆虫スタンプ

誰かに伝えたい「身近な自然絵」はがき大募集！2023

伊丹市昆虫館、伊丹市内郵便局、伊丹市立図書館ことば蔵の連携による、「身近な自然」絵はがきを今年も募集します。応募作品はすべて、ことば蔵、当館で展示されるほか、当館展示期間中に使用できる当館招待券付きポストカードをプレゼント！また受賞作品には表彰状と記念品が贈呈されます。審査のポイントは、「身近な自然が生き生き、のびのびと表現されていること」。夏休みの思い出に、身近にある自然にことばを添えて、自分だけの絵はがきを書いてみませんか？



2022年の応募作品 323点から選ばれた受賞作品

【応募方法】

郵便はがき（63円）に身近で見つけた自然をテーマに絵を描いて、ことばなどを添えて伊丹市昆虫館へお送りください。差出人欄に住所、氏名、電話番号をご記入ください。もしくは、伊丹市内郵便局窓口、伊丹市昆虫館、ことば蔵へ直接はがきを持参。

【応募宛先】

〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館 自然絵はがき係宛 ※直接はがきを持参の場合も、宛先、住所、氏名、電話番号を記入してください。

【受付期間】

2023年7月15日～8月31日（当日消印有効）

*新型コロナウイルス感染症対策等のため、予定を急ぎ変更する可能性があります

もよおしあんない

8月

- 3（木） はちみつしぼり体験
- 5（土） 昆虫標本の作り方講座【要予約】
- 6（日） 学芸スタッフトークショー
前畑学芸スタッフの「推しイモムシのおはなし」
- 20（日） 伊丹市生物多様性交流フェスティバル

9月

- 8（金）～17（日） 鳴く虫と郷町
- 24（日） こやいけ野鳥観察会【要予約】

10月

- 7（土） 学芸スタッフトークショー
野本副館長の「推し虫 オオキンカメムシ」

特別展

7/15～10/23 みんなの推し虫

企画展

10/25～1/29 モズのはやにえリターンズ

プチ展示

6/7～8/28 カイコ
8/30～10/30 マルバネクワガタ

行事の申込方法

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月～2週間前までに
お問い合わせください。

申し込むには...

- ・FAX、Eメール（PDF添付を含むPCメールとのやりとりができるアドレス）、および往復はがきで受け付けします。
- ①行事の名前、②申込者全員（同伴含む）の氏名（ふりがな）、③年齢（学年）、④住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送りください。申込多数の場合は抽選になります。
- ・小学生以下は保護者同伴での申し込みをお願いします
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールアドレス itakon@itakon.com
（メールを送って3日以内に受付の返信がない場合は、お手数ですが再度ご連絡ください）
- ・往復はがきの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

特別展「みんなの推し虫」が無事にオープンいたしました！10月23日までのロングランです。その次は企画展「モズのはやにえ」だよ！（のもと）特定外来生物アルゼンチンアリの、調査と防除で忙しい日々を過ごしています。在来種のアリを取り戻せ。（ながしま）